

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 白野江 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。
	よくできた問題	・資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができた。 ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができた。
	努力が必要な問題	・書くことの問題が特に低かった。

算数	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。
	よくできた問題	・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題ができた。 ・問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題ができた。
	努力が必要な問題	・速さの問題が特に低かった。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
○ 学校に行くのは楽しいと思っている児童の割合がとても高かった。日々の取組の成果である。 ○ 人が困っているときに進んで助けていたり、人の役に立つ人間になりたいと思ったりしている児童の割合が高かった。やさしい心が育っている。 ○ 国語、算数、理科、英語どれも勉強は好きと答えている児童の割合は、全国より高かった。また、授業の内容はよく分かったと答えている児童の割合も全国より高かった。 ○ ICT機器を活用して学習していると答えていた児童の割合が全国より高かった。ICT機器を活用した授業が行われている。 ○ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童の割合が、全国より高かった。また、自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている児童の割合も高かった。さらに、授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができると答えた児童の割合も、全国より高かった。授業の中での話し合い活動が効果的に行われていることが分かる。 ○ 朝食を毎日食べている児童の割合が低かった。また、２時間以上テレビゲームをしている児童の割合と、１時間以上携帯電話、スマートフォンでSNSや動画視聴をしている児童の割合が高かった。基本的な生活習慣を身に付けさせる必要がある。 ○ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守っている児童の割合が低かった。保護者への啓発が必要である。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○ 現在、取り組んでいる、思考、判断、表現力を高めていくために話し合い活動を発展させる。どの話し合いでも、何のための話し合いかを意識させ、話し合う内容を焦点化することによって、児童に自分の考えをもたせて話し合い活動に参加できるようにする。また、ICT機器や思考ツールを活用し児童が自分で考えを整理できるように指導していく。 ○ 言語の基礎的・基本的能力を高めるために低学年で行っているMIMの継続実施と補充問題を徹底して行う。 ○ 漢字や計算などの基礎的な力を高めるために、継続してタブレットの有効活用を行っていく。 ○ 歯と口の学習から生まれた児童の課題を追究していけるように学習内容を工夫していく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 生活習慣・生活態度の見直し・改善について、継続して家庭へ働きかける。 ・歯と口の学習の様子を発信しながら、規則正しい食生活や基本的な生活習慣の定着、生活時間の見直し・改善等の大切さや必要性について、情報を伝える。 ・テレビ等の視聴とゲーム・携帯などの使用に関して、家庭でルールを決め、徹底するように、通信・懇談会等、あらゆる機会を通して保護者に働きかける。 ○ 家庭学習の意義や取組状況等について、通信・懇談会等、あらゆる機会を通じて家庭や地域に情報を継続して発信する。 ・学年×１０分を家庭学習の時間の目安として設定している。 ・自分で決めた課題が早く終わった場合は、読書をすることも推奨する。
